

石原大臣による意見交換会後の記者会見の概要

日時：平成28年9月12日（月）09：20～09：24

場所：中央合同庁舎8号館1階エントランスホール

【冒頭発言】

今朝、駐日米国大使主催によるTPP各国大使との意見交換会の招待を受けたので出席してきた。それに先立ち、ケネディ大使とバイでも話をしてきた。

ケネディ大使との話では、我が国としても早期のTPPの国会承認を目指していることを伝えるとともに、TPPの早期発効、アメリカ側も努力をすると、オバマ大統領の強い決意もお聞かせ願ったが、両国で協力して取り組んでいくことで一致した。

また、各国大使との意見交換会だが、TPPは全員が言っていたが、各国にとって大変有意義であると。そして、意見の中で安全保障の観点からも重要であるという話も出た。TPP協定の早期発効に向けて各国が国内手続きを速やかに進めることをお互いに確認した。

各国の国内手続きの状況について一人ずつ説明があった。各国とも速やかに国内手続きを進めるべく努力している、時期については年内にやるという国もあるしもう終わってしまったという国もあるし来年早々になるというような説明もあったが、総じて前に進んでいるということで、大変勇気づけられた。

もうひとつ、TPP協定は、一部だけを取り出して再交渉すれば、これは私も冒頭絶対しないんだという話をしたが、全体が崩れてしまうということでは認識が一致し、本日の会合で改めて「再交渉はあり得ない」と各国共々意見が出された。

これを踏まえ、月末の臨時国会において、TPP協定の本体と整備法案の早期成立を目指したいと考えている。

【質疑応答】

（記者）再交渉はあり得ないという話があったが、今、米国大統領選が迫っていて、両候補とも現時点ではTPPに反対だと言っているが、そのあたり改めて危惧するような話は各国の大使からあったか。

（石原大臣）それはなかった。

（記者）そういう話にも特にならなかったのか。

（石原大臣）ケネディ大使が冒頭ステイトメントを発したとおり、米国としてもオバマ大統領がしっかりとレームダックセッションで取り組んでいくと、そういう説明があったので、今のようなご質問やご意見はなかった。

（記者）大臣は各大使が揃った席で、早期発効に日本は取り組んでいくというような話はどいういった発言をしたのか。

（石原大臣）今話したように、やはり戦略的な意義、特に東南アジアの国の方々からも安全保障上非常に意味があるという話も出たので、まさにそのとおりだと、そういう意味からもしっかりと早期発効に向けてこの国会で努力をしていくと。また、ラオスでの安倍総理やオバマ大統領のステイトメントの話もした。

以上